

港区議会議員

区民相談は
お気軽に!

池田たけしNEWS

一人のために、地域のために

発行所：〒107-0052 港区赤坂6-7-14-608 TEL&FAX：03-6230-9441
発行日：2025年8月18日 URL：https://ikeda-takeshi.net

令和7年第2回港区議会定例会

代表質問

「産後うつ」回避への対応について

Q 妊産褥婦の妊娠・出産でのさまざまなリスクを事前に把握し、「マタニティブルー」から「産後うつ」へと移行してしまうことを回避するため、メンタルヘルスの向上、拡充のための対応をどのように進めるのか伺う。

A 区内産科医療機関などに妊産褥婦の実態把握のメンタルヘルス支援を含むアンケートを実施した。そこから得た課題に対応するため今後、区と医療機関の相互で直接意見交換し、「産後うつ」防止を含めたメンタルヘルスの支援拡充に取り組む。

創業支援について

Q 創業支援策を得るための申請要件がわかり難く、また不慣れな創業企業経営者に対し、申請方法や要件についての理解を深め、分かり易く、申請での負担軽減に資する区の一層の対応について伺う。

A 現在のコールセンター対応に加え、今年度中に新たに常時、申請要件を自身で診断できるフォームをウェブに設けて、申請に不慣れな利用者への支援策を強化します。

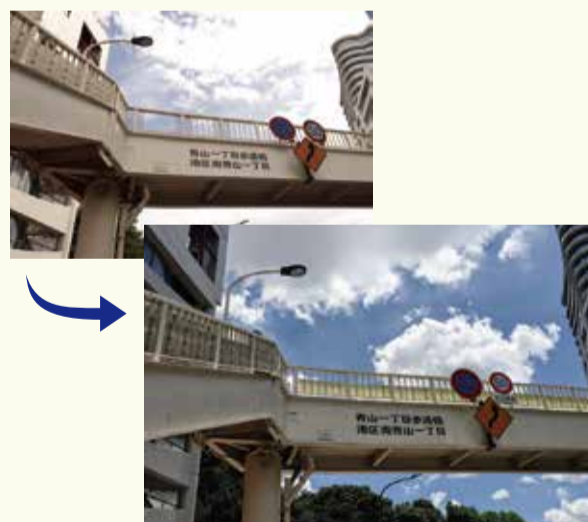
実績

都営地下鉄駅のオブジェ修復



都営大江戸線 麻布十番駅の改札構内の壁面設置の伊藤隆道氏作のオブジェ、「明るい空気・4」に地下鉄構内の湿気などの影響で作品に錆が出てきているとのお声を頂き、管理者に修復を依頼、作成者により修復していただきました。

歩道橋欄干の安全性を確保



外苑東通り青山1丁目にかかる青山歩道橋は欄干の柱の間隔が広く、幼児などには危険なため、隙間をプラスチックの網板で塞いでいました。この網板を留めるプラ結束バンドが風雨や紫外線で千切れ、度々網板が外れる危険な事態とのお声を頂きました。管理者にお願いし、階段部分と同じ金具留めのプラスチックの板に改修しました。

カーブミラーを改修



都立青山霊園に接する丁字路のカーブミラーは通行する自動車の確認のため片側方向だけの1面鏡でしたが、反対側からの自転車や通行者も確認できるようにミラーを追加しました。

令和7年第2回定例会共通実績

防犯カメラ設置費用助成が拡充

港区では2006年から、自宅の防犯対策として、防犯カメラ等の区が定めた防犯品目について、費用が5,000円以上のものに対し、上限1万円・費用の2分の1を助成してきました。しかし、近年は侵入窃盗や強盗の増加を背景に申請件数が増加し、防犯への関心も高まっています。

こうした中、区議会公明党は2025年第1回定例会において、防犯カメラ等の設置費用助成の拡充を要望したほか、同年4月21日には港区長に直接、助成拡充を緊急要望！

その結果、港区は2025年7月から、助成率を3分の4、助成上限額を4万円へと一時的に拡充することを決定。※2025年4月以降に設置されたものにも適用されます。



港区版デジタル地域通貨「みなトクPAY」開始と追加キャンペーン！

2025年7月1日より港区版デジタル地域通貨「みなトクPAY」の運用が開始されました。

これまでの「プレミアム商品券」に加え、チャージして使える「マネー」機能、ご利用額等に応じた「ポイント」付与など「使う、貯める、参加する」と、暮らす方、働く方、遊びに来られた方に、さまざまなおトクでたのしいサービスが揃っています。

区議会公明党では2024年港区議会予算特別委員会などで、これまでの区内共通商品券アプリをさらに拡充し、利用する方の利便性向上と商店街振興創出のため、より高機能な「デジタル地域通貨」へのアップグレードを求めてまいりました。

また、昨年11月港区長に対し、物価高騰対策を優先順位の一歩に位置付け、予算要望していたところ、みなトクPAYのポイント還元キャンペーンが、当初予算での2025年7月と26年2月に加え、25年10月にも追加キャンペーン実施の補正予算が可決成立！



「お問い合わせ先」
みなトクPAYコールセンター：0120-19-3710

ひとり親、多胎児、障がい児のベビーシッター利用上限時間拡充！

港区ではこれまで、子育て家庭を支援するため、ベビーシッター利用料の補助を実施してきました。年々利用者が増加する中で、特に身体的・精神的な負担の大きいひとり親家庭や、多胎児・障害児のいる家庭からは、支援の拡充を求める声が寄せられてきました。

こうした声を受け、区議会公明党は議会において支援の拡充を要望。その結果、2025年7月から、以下のように制度が拡充されることが決定しました。

- ・ひとり親家庭や障がい児のいる家庭：年間の利用上限時間を、1人あたり144時間から288時間に。
- ・多胎育児家庭：年間288時間の対象年齢を、未就学児から小学校6年生までに。



アイフレイルの講座が開催に！

アイフレイルとは、加齢に伴う調節機能やコントラスト感度の低下など、視機能の低下した状態のことで、家に閉じこもりがちになって体力が低下し、孤独感が起こり健康寿命の短縮もつながる恐れが。視覚障害の多くは高齢になって起こり、2019年度視覚障がいとなり新たに身障手帳を取得した73%が60歳以上で、原因疾患では緑内障が40.7%と最も多いとの調査結果も。

そこで、区議会公明党は、2024年10月港区議会決算委員会にて、アイフレイルを早期発見し、治療や生活習慣の改善によって、視覚障害の予防につなげるべきと訴えたところ、2025年7月31日にラクチャにて、アイフレイルの講座が開催されることに！



屋内遊び場「あっぴいパーク高輪」が新設！

港区では、民間ビルを活用し、高輪地区に子育てひろば「あっぴい高輪」と、区内で初めてとなる大型遊具を備えた屋内遊び場「あっぴいパーク高輪」を整備し、7月1日より開設されました。

子どもたちが安心して体を動かせる遊び場の確保や、一時預かり・子育て相談など、家庭を地域で支える機能を備えた複合型施設として、高輪地域の新たな子育て支援の拠点となります。

特に「あっぴいパーク高輪」は、気温が高くなる夏場や、雨天時でも安全に遊べる環境づくりの一環として整備されたもので、区民ニーズの高かった屋内型の遊び場が新たに実現しました。

区議会公明党は、2023年11月定例会など、気候に左右されず安心して遊べる屋内施設の必要性や、地域ごとの遊び場の拡充について、繰り返し提案を行ってきました。



災害時避難所の温かい食事の提供体制が強化！

災害時の避難所におけるTKB(トイレ、キッチン、ベッド)の適正数の整備は、災害関連死を防ぐためにも重要です。

手作りの温かい食事は被災者の心身を癒やし、復興を後押しする力になります。

公明党の推進で、そうした避難所環境を抜本改善するための交付金が創設されたことから、2025年2月定例会の代表質問で、交付金を活用し温かい食事の提供に必要な資機材備蓄を訴え。

その結果、同年7月定例会で補正予算が成立し、避難所の温かい食事提供用の、誰でも簡単に使える炊き出し用バーナーが、当初予算の4か所から追加で53か所と、全区民避難所に配備となり、避難所の環境がより改善されることに！



複線型授業が全校で本格実施へ！

港区では、これまで一部の学校で実施してきた「複線型授業」が、2025年度から区立小中学校全校に拡充されました。

一人ひとりの理解度や特性に応じた「個別最適な学び」と、仲間と対話しながら学び合う「協働的な学び」を両立する授業スタイルで、ICTやデジタル教材の活用も進んでいます。これにより、子どもたちの学習意欲や表現力、自ら学びに向かう姿勢の向上が見られ、不登校や学力差の課題にも柔軟に対応できる環境が整いつつあります。

区議会公明党は、2025年度予算特別委員会などを通じ、「個別最適な学び」「協働的な学び」に加え、「探究的な学び」の推進についても提案・要望を行ってきました。

